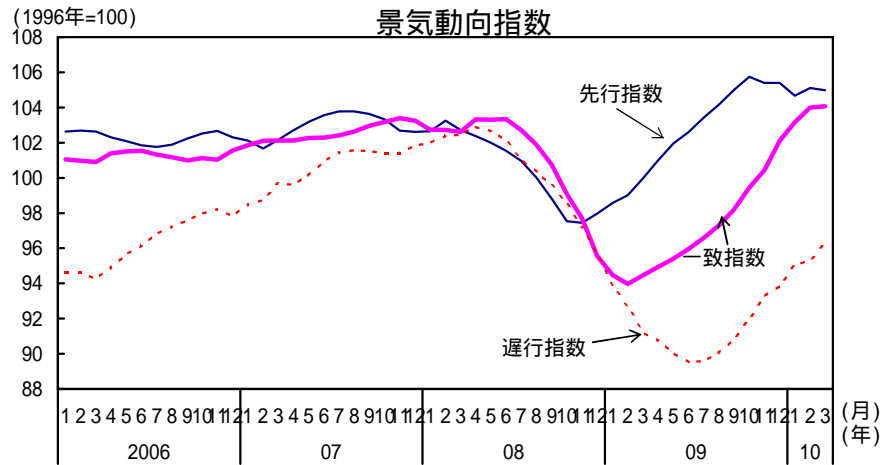
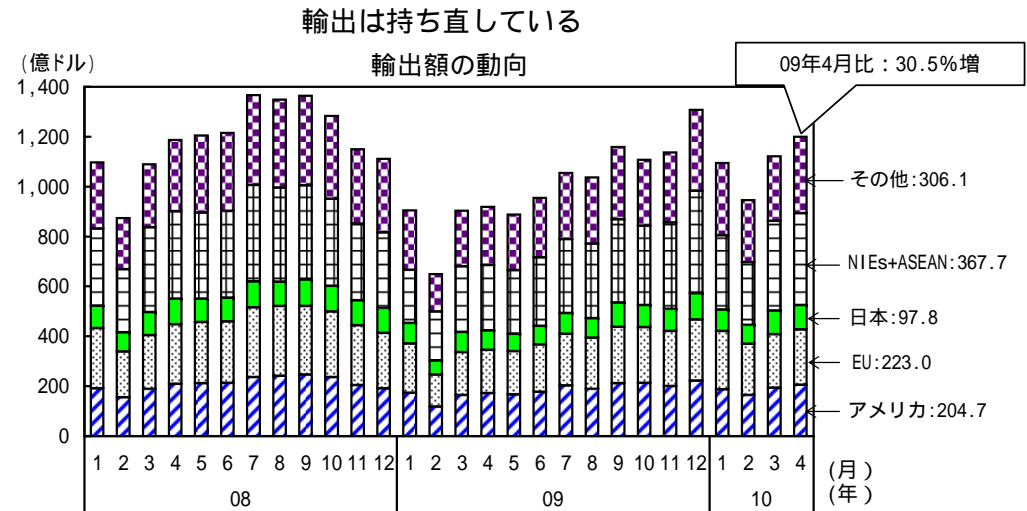
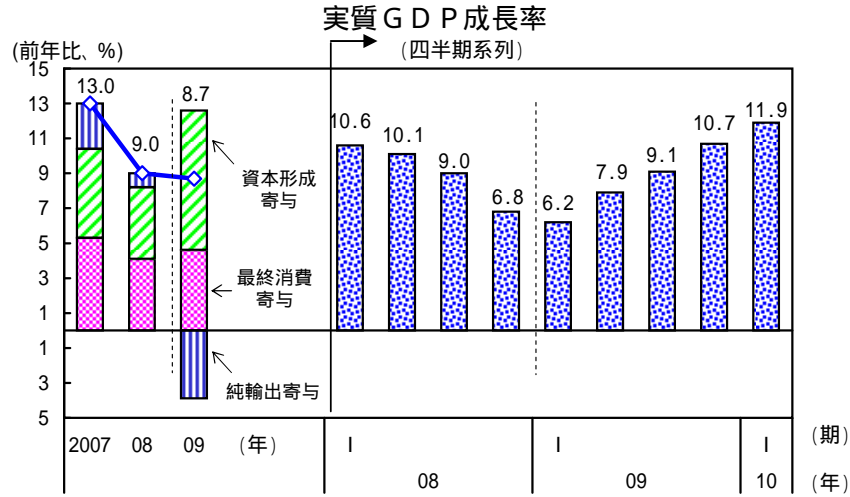
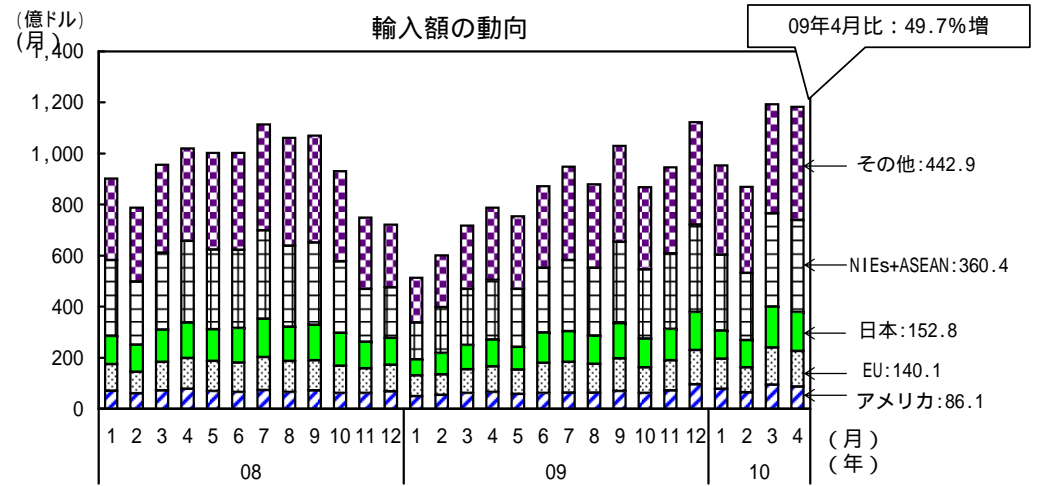


2. アジア地域

中国： 中国では、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に拡大している。
先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、拡大傾向が続くと見込まれる。
ただし、マネーサプライの急増によるリスクには留意する必要がある。

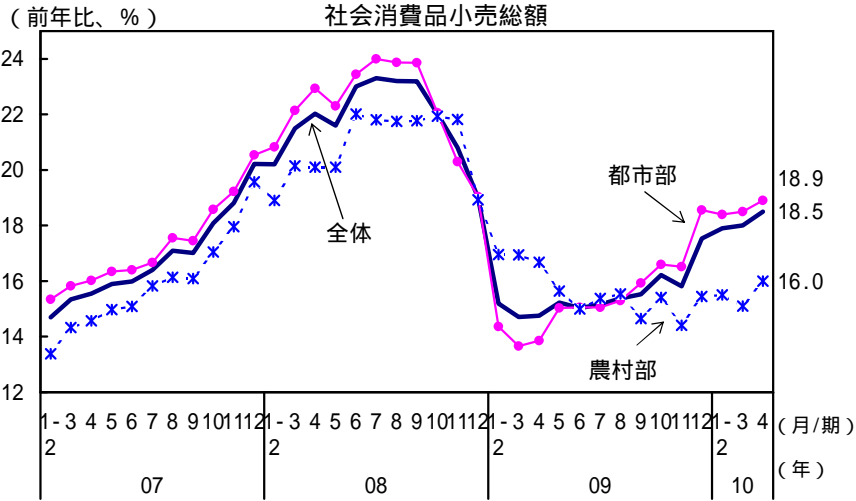


(備考) 1. 中国国家統計局より作成。
2. 一致指数は鉱工業生産等の8指標、先行指数は消費者期待指数等の8指標、遅行指数は個人預金残高等の5指標から構成されている。



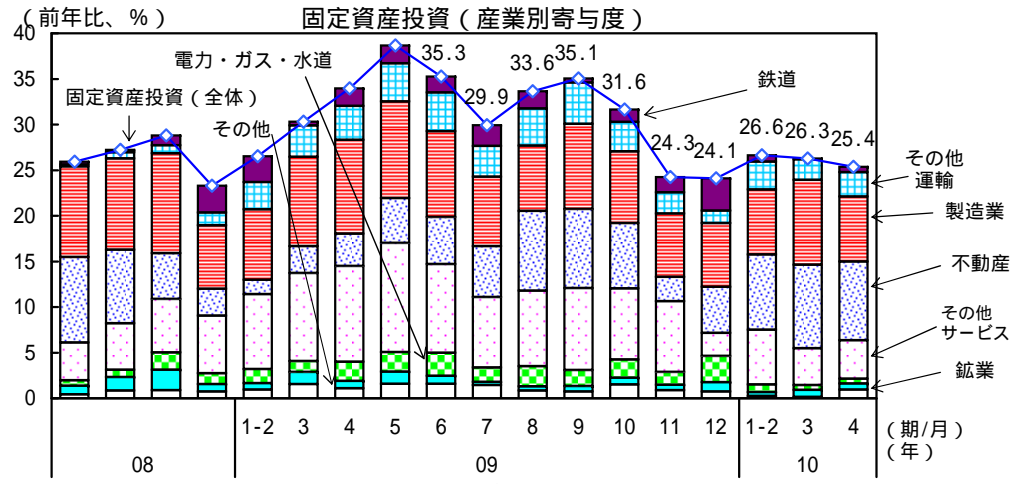
(備考) 1. 中国海関総署より作成。
2. グラフは原数値。

消費は堅調に増加



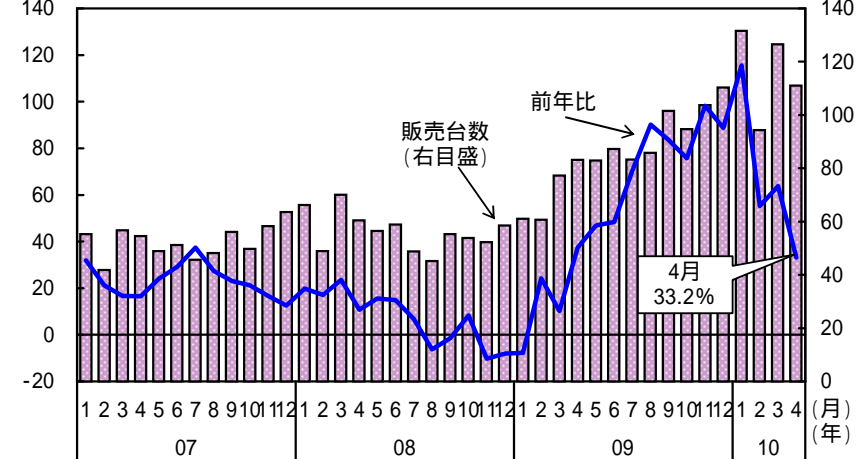
- (備考) 1. 中国国家統計局より作成。
 2. 09年のシェアは、都市部68%、農村部32%。
 3. 中国では、消費刺激策として、排気量1.6l以下の乗用車の車両取得税の減税(09年1月~10% 5%、なお10年1月からは7.5%)、農村における家電の普及政策(「家電下郷」)の全国展開(09年2月~)、農村における自動車の普及政策(「汽車下郷」)(09年3月~)を実施している。さらに、09年6月から、自動車の買換え促進策や、9省・市において試験的に家電の買換え促進策を実施している(「以旧換新」)。

固定資産投資は高い伸びが続いている



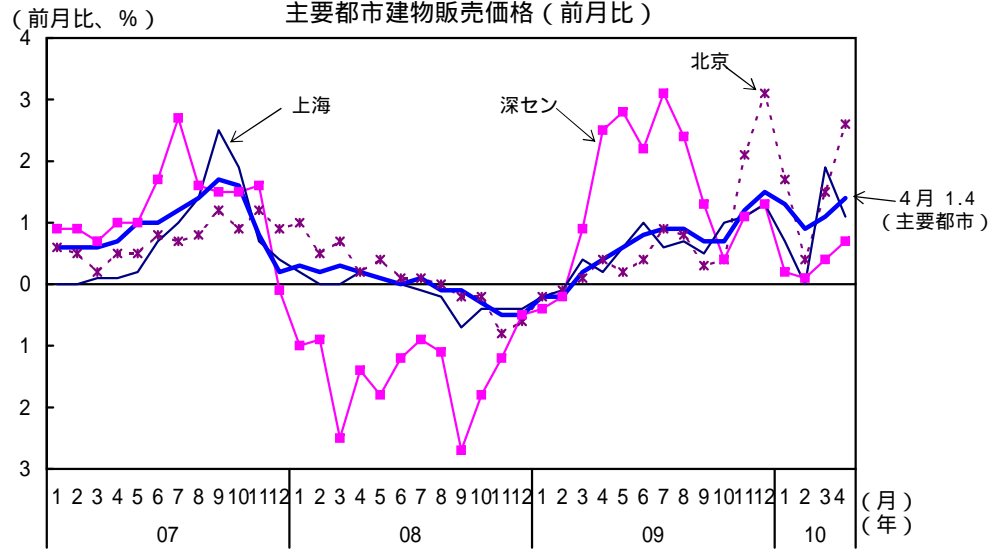
- (備考) 1. 中国国家統計局「都市部固定資産投資」より作成。
 2. 県以上のレベルの政府機関、企業等によって実施される投資プロジェクトで、中国全体における固定資産投資の86%(09年)を占める。
 3. 不動産開発投資については、09年11月に土地購入費に関する統計の変更が行われた。

乗用車販売台数は政策効果もあり大幅に増加



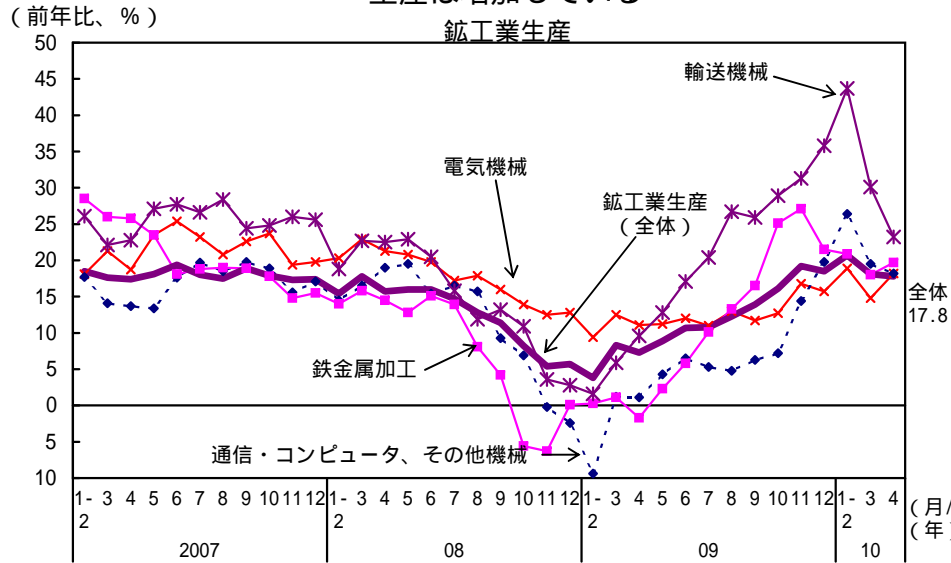
- (備考) 1. 中国汽车工業協会より作成。
 2. 春節(旧正月)は、08年2月6~12日、09年1月25~31日、10年2月13~19日。
 3. 2009年の販売台数は約1033万台。

主要都市建物販売価格(前月比)

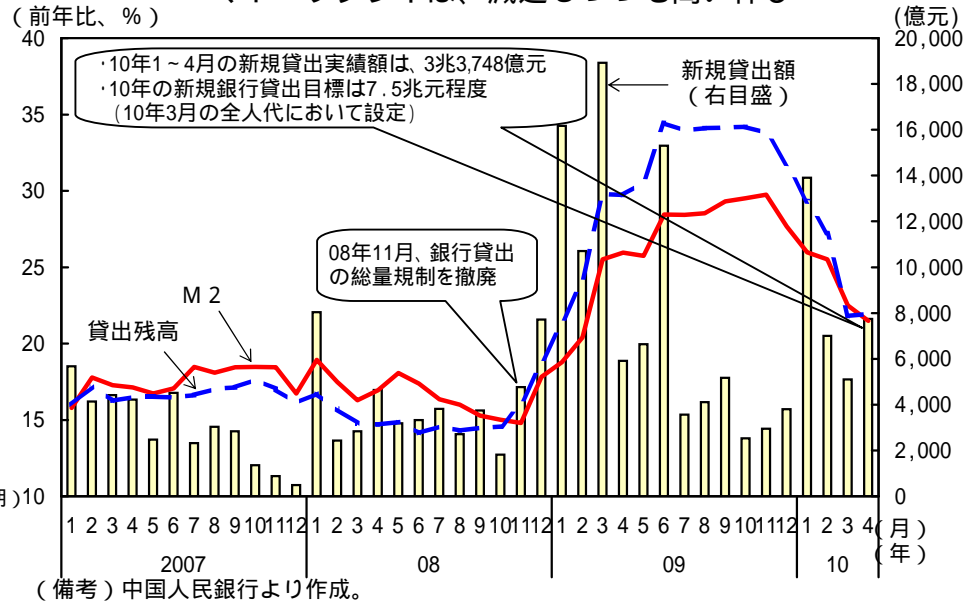


- (備考) 中国国家統計局より作成。

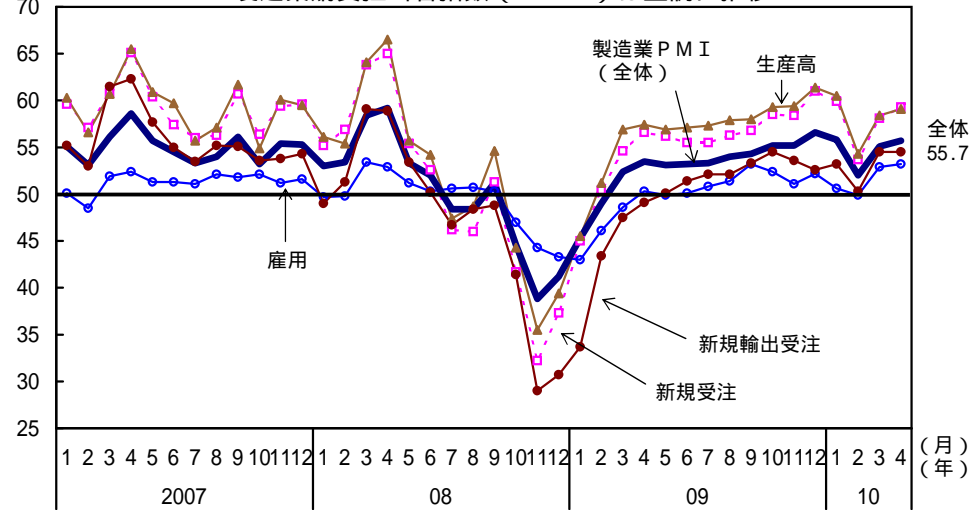
生産は増加している



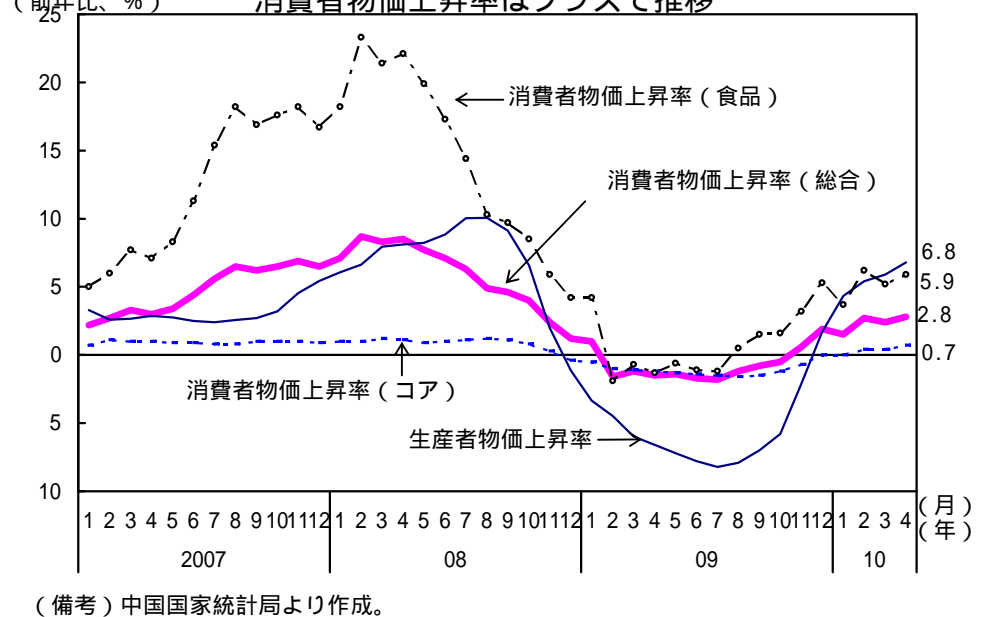
マネーサプライは、減速しつつも高い伸び



製造業購買担当者指数 (PMI) は堅調に推移



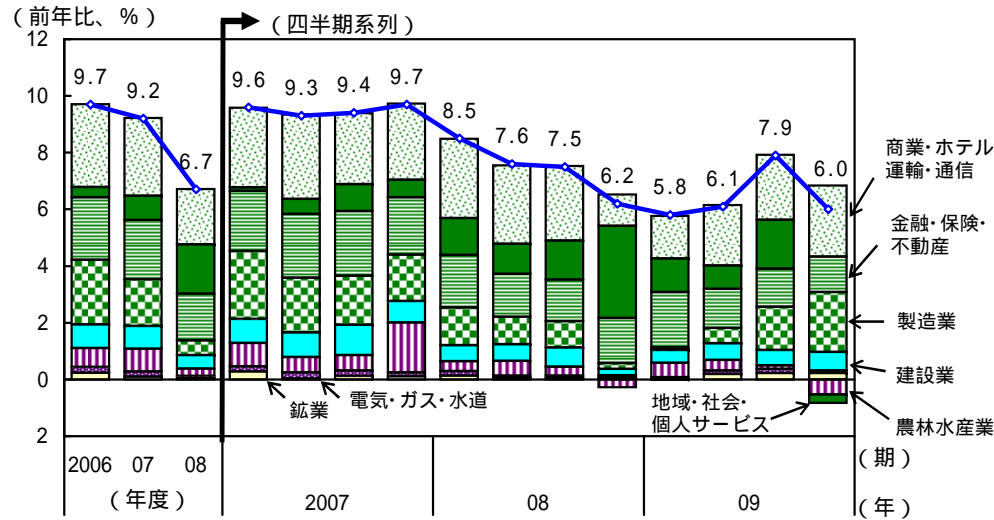
消費者物価上昇率はプラスで推移



インド：

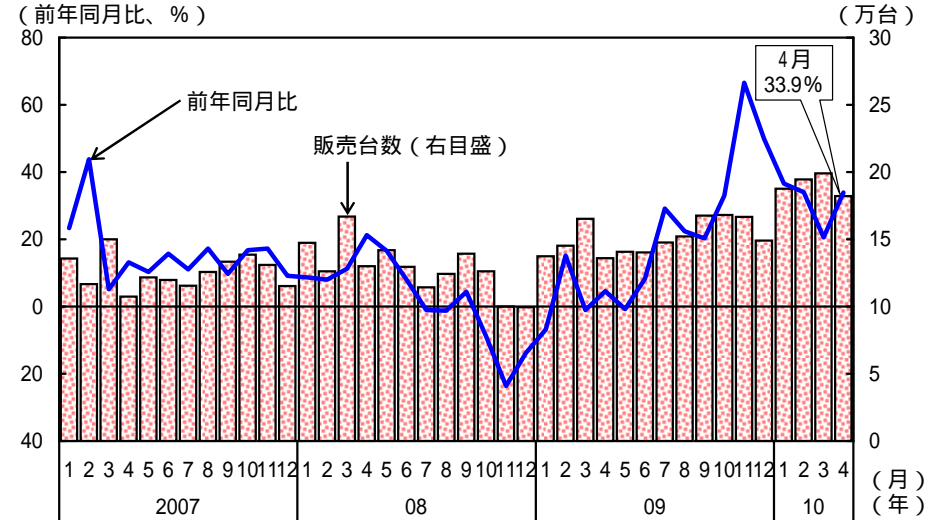
インドでは、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に回復している。
先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、回復傾向が続くと見込まれる。

ただし、物価上昇によるリスクには留意する必要がある。
実質GDP成長率



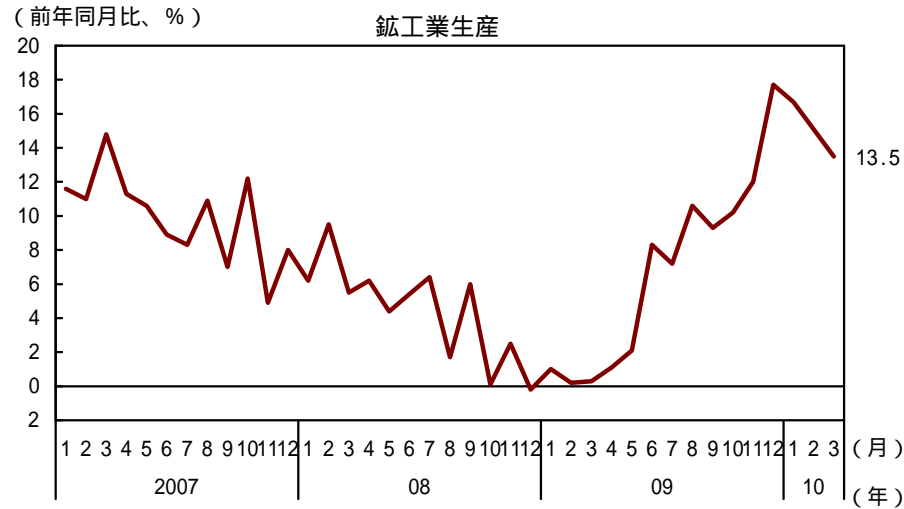
(備考) 1. インド中央統計局より作成。
2. 年度は財政年度(4月~翌年3月)による。

国内乗用車販売は増加



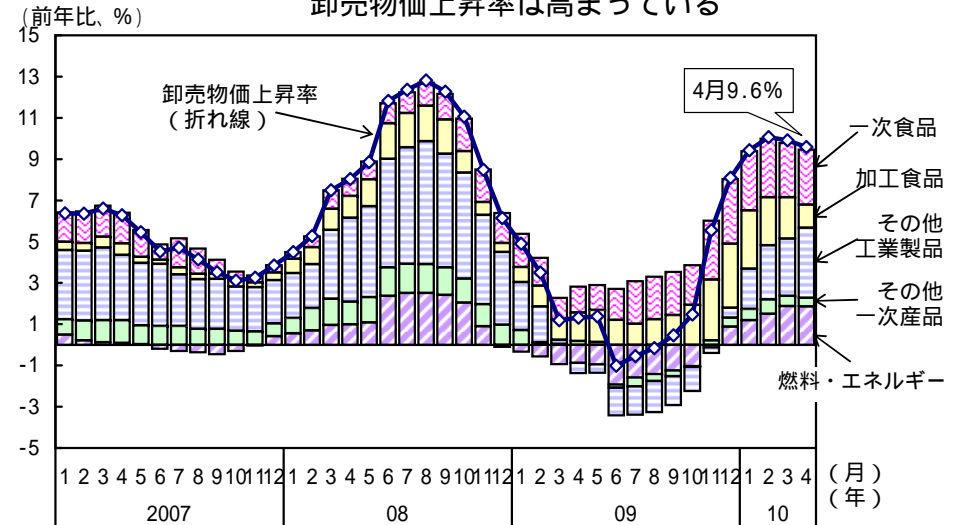
(備考) 1. インド自動車工業会(SIAM)より作成。
2. 2009年度販売台数は約195万台。

生産は増加している



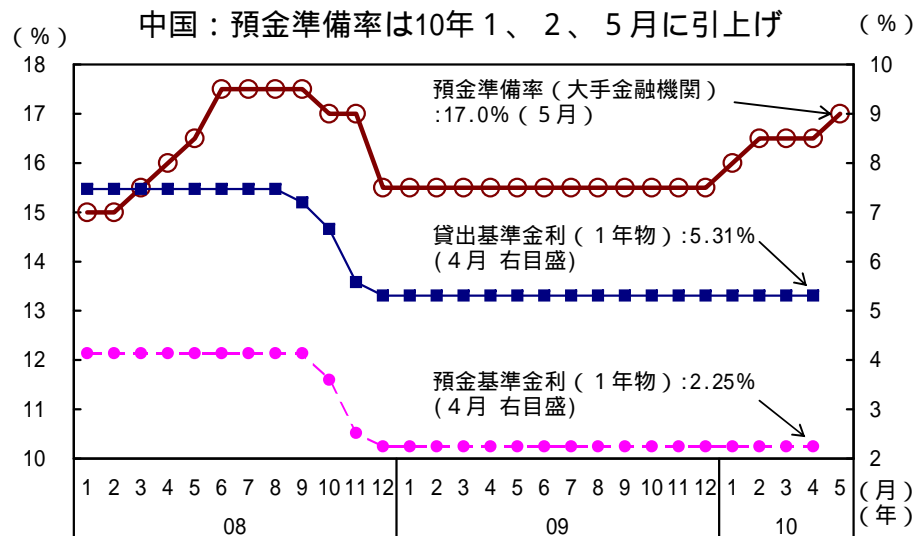
(備考) インド中央統計局より作成。

卸売物価上昇率は高まっている

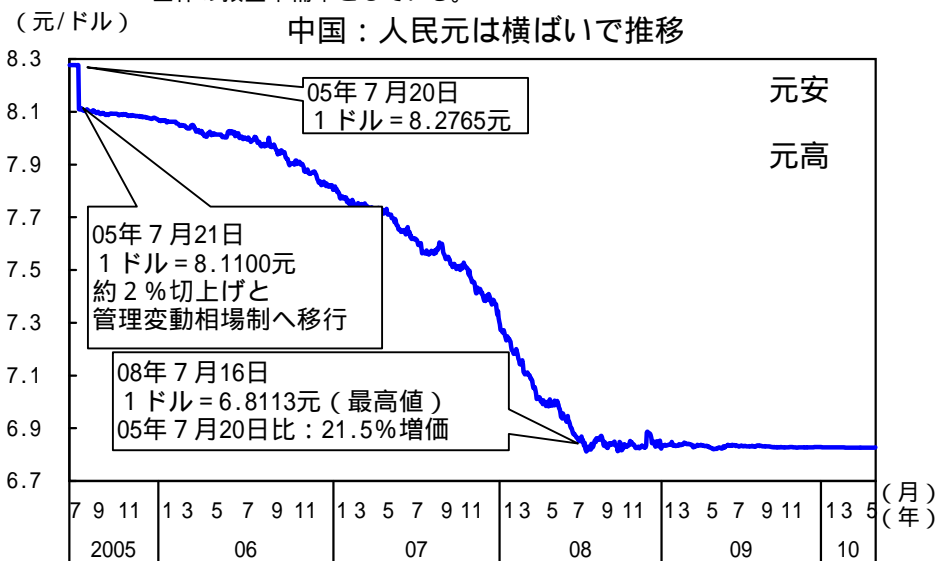


(備考) 1. インド商工省より作成。
2. 卸売物価上昇率はインド政府・金融当局が最も重視する物価指標。

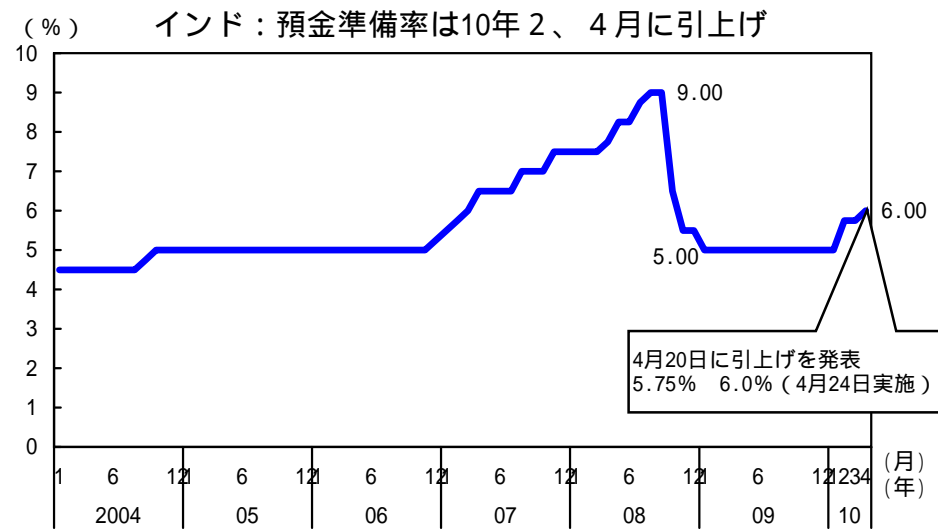
中国・インド：金融政策の動向



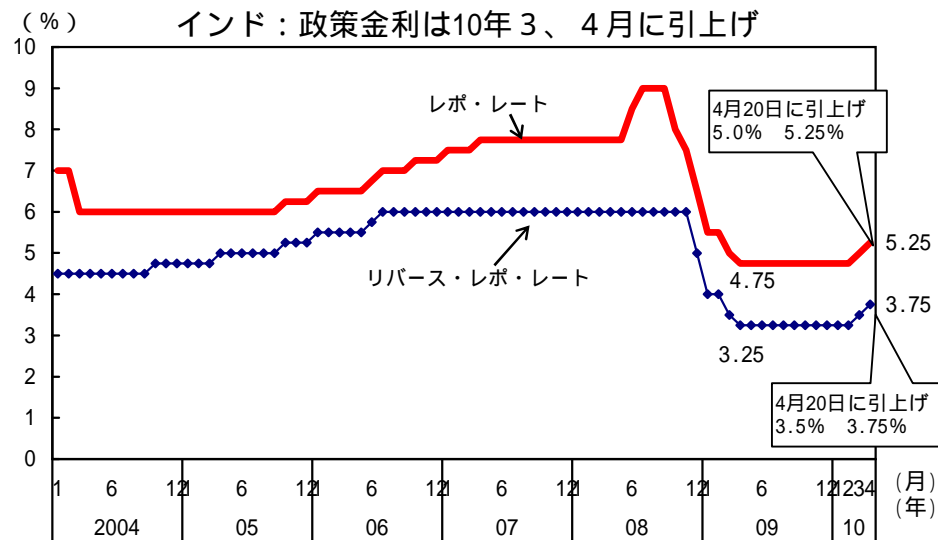
(備考) 1. 中国人民銀行より作成。
 2. 08年7月以前は大手金融機関の預金準備率が公表されていないため、全体の預金準備率としている。



(備考) 中国人民銀行等より作成。



(備考) 1. インド準備銀行(中央銀行)より作成。
 2. 09年10月27日、インド準備銀行(RBI)は、国内商業銀行が保有しなければならない国債やその他政府指定債券の預金総額に対する比率である「法定流動性比率(SLR: Statutory Liquidity Ratio)」を1%引き上げて25%とすると発表した(11月7日から実施)。

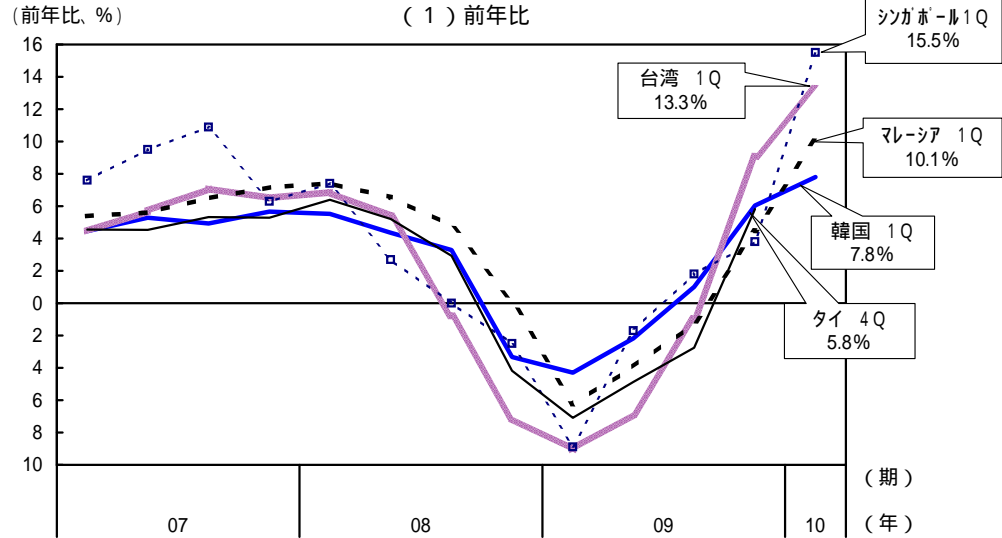


(備考) インド準備銀行(中央銀行)より作成。

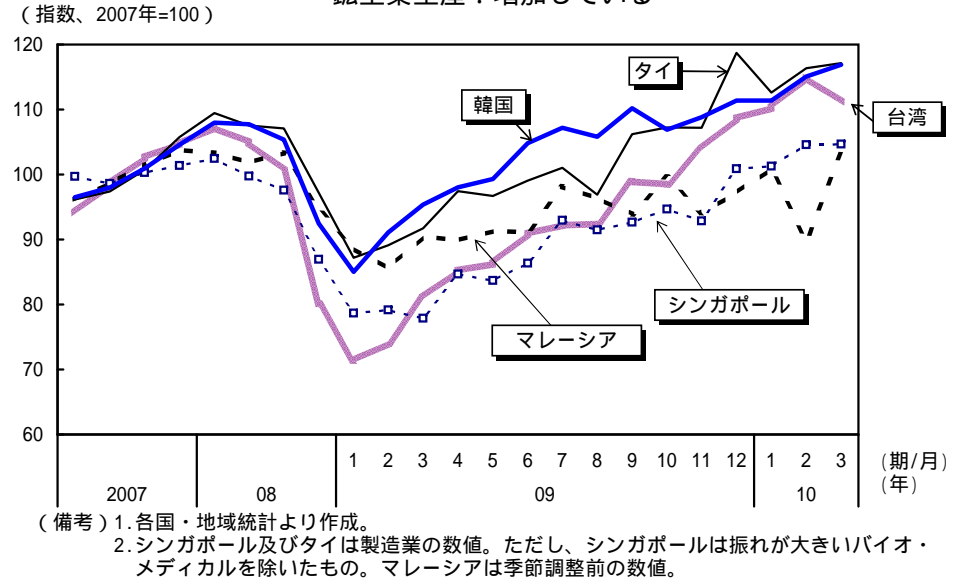
その他アジア地域：

その他アジア地域では、景気刺激策の効果や中国向け輸出の増加もあり、総じて景気は回復している。先行きについては、引き続き中国向けの輸出が堅調に推移するとみられること等から、回復傾向が続くと見込まれる。ただし、欧米等先進国向けの輸出の低迷が続くこと等により、本格的な回復が遅れるリスクがある。

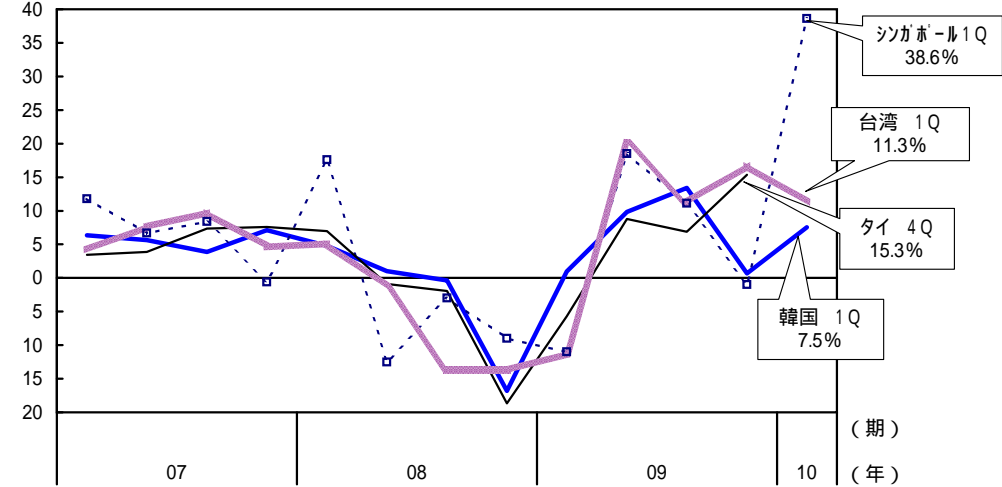
実質 GDP 成長率



鉱工業生産：増加している



(前期比年率、%) (2) 前期比年率



(備考) 各国・地域統計より作成。

輸出：増加している

